

TAC簿記検定講座
無料公開セミナー

2級ステップアップセミナー

（工業簿記編）

～工業簿記を得点源とする基本戦略！～

☆はじめに☆

本日のセミナーは、日商簿記2級から新たに学習する工業簿記についてお話しします。

3級で対象となっていた会社形態は基本的に「個人商店」でしたが、2級で対象となる会社形態は「株式会社（特に中小企業）」です。会社はいろいろな商売を営んでいます。例えば商品売買を中心に営んでいる会社、物を製造することを中心に営んでいる会社等がありますが、日本は世界の中でも製造業が多いといわれています。「工業簿記」は製造業で使用される簿記なのです。

それでは、さっそく2級合格を目指す上で重要な鍵となる工業簿記の基本的な考え見ていきましょう。

目 次

I	工業簿記の世界	P 3
II	商業簿記・工業簿記の違い	P 4
	【1】 商企業と工企業	
	【2】 工業簿記と原価計算との関係	
	【3】 原価計算期間	
III	原価とは・・・	P 6
	【1】 形態別分類・・・原価を三つに大別	
	【2】 製品との関連における分類	
	【3】 操業度との関連における分類 に大別	
IV	原価計算をやってみよう！	P 9

I 工業簿記の世界

工業簿記は、“物を作る過程”を金額で記録することを学習しますが、その際、流れ作業で物を作っていく過程をイメージすると良いでしょう。

ところで、みなさんにとって商業簿記と工業簿記ではどちらが身近に感じるでしょうか。恐らく「商業簿記」と答える方が多いと思います。工業簿記はイメージが難しく日常的ではない、と考えるからかもしれません。

しかし、「工業簿記」は皆さんの生活と密接に関係しているものです。以下、身近な例に置き換えて話を進めていきましょう！

なお、工業簿記では“製品をいくらで作れるか”という計算（原価計算）も同時に行います。

（2級における「工業簿記」の中には「原価計算」と「工業簿記」の二科目が含まれています）

【日商2級本試験内容】

科 目 商業簿記・・・（60点／3問） 工業簿記・・・（40点／2問）

合 格 点 70点以上が合格（100点満点）

※科目ごとの足切りはなし。しかし、商業簿記が満点でも工業簿記で点数を取れないと合格は難しい

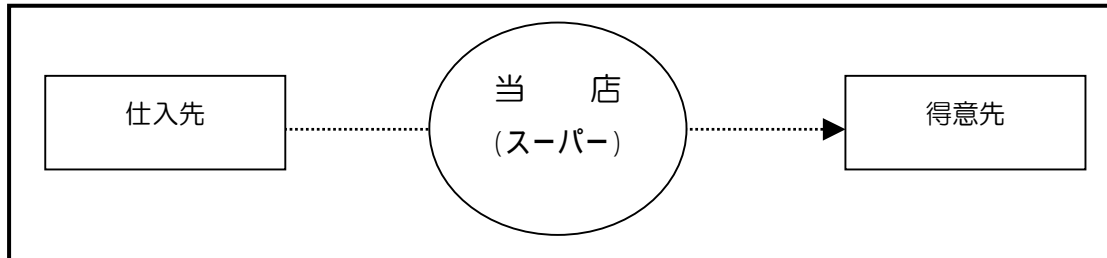
近年の出題傾向

- 費目別計算 ・・・・第98回・第99回・第100回・第107回
- 個別原価計算 ・・・・第97回・第99回・第103回・第105回
第108回・第109回・第110回
- 総合原価計算 ・・・・第96回・第97回・第102回・第104回
第105回・第106回
- 標準原価計算 ・・・・第98回・第103回・第107回・第110回
- 直接原価計算 ・・・・第100回・第101回・第104回・第108回
- 財務諸表の作成 ・・・・第96回・第102回・第106回

Ⅱ 商業簿記と工業簿記の違い

【1】商企業と工企業

●商企業（商品売買業）



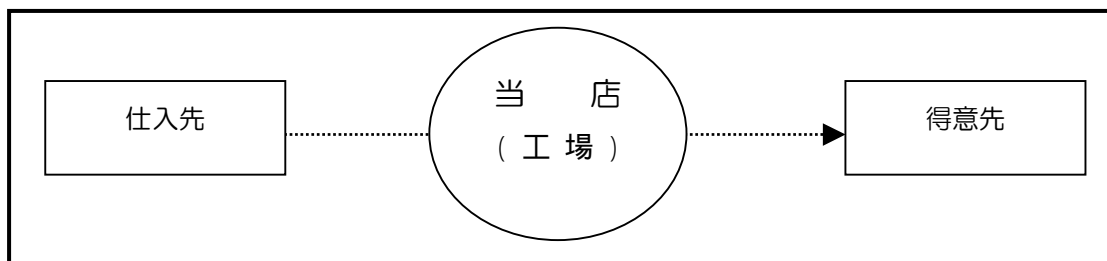
◆リンゴ（商品）をリンゴ（商品）として販売

◆安く仕入れて高く売る

リンゴを 1 個@100 円で購入し、@150 円で販売

⇒ 50 円の利益（もうけ）

●工企業（製造業）



◆リンゴ（商品）を加工し、アップルパイ（製品）として販売

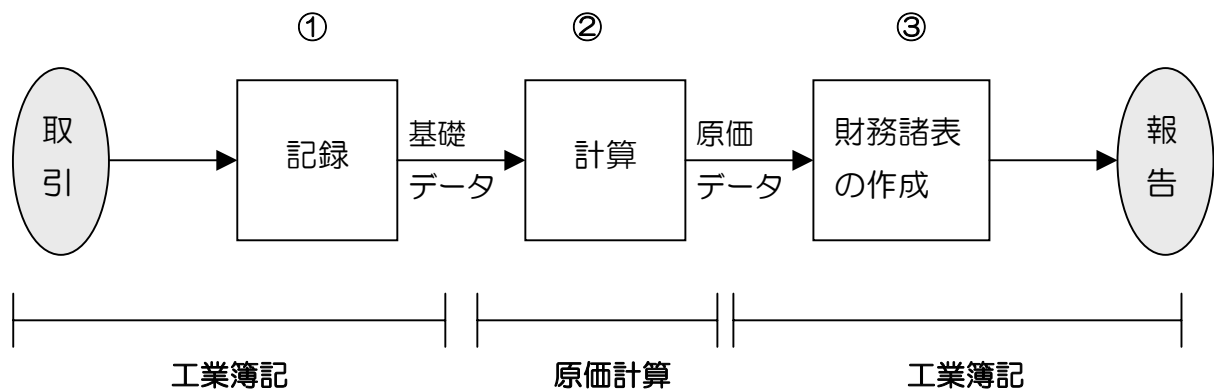
◆安く作り高く売る

リンゴ（1 個@100 円）を使用し、アップルパイを@130 円で作成し、@200 円で販売

⇒ 70 円の利益（もうけ）

商企業と工企業を比べた場合、仕入先から商品（あるいは材料）を購入し、得意先へ商品（あるいは製品）を販売する活動（売買活動）は両者とも同じなので、商業簿記のルールが適用されます。しかし、工企業の特徴は製品を製造することにあり、この活動（製造活動）を記録するのは工業簿記ということになります。

【2】工業簿記と原価計算との関係



まず、①取引が発生したら帳簿に記録します。②次に製品が完成した段階で、原価計算の手法を用いてこの製品がいくらで完成したかを計算します。③最後に財務諸表を作成して報告します。この取引の「記録」と「報告」が工業簿記であり、上記基礎データをもとに「計算」することが原価計算です。この二つは切っても切り離すことができない関係なのです。

原価計算の目的

- 製品価格決定のため・・・製造したもの（製品）をいくらで販売すべきか？の基礎データとして。
- 財務諸表作成のため・・・製品がどのくらい売れたか？
製品の売れ残り・作り途中・材料がどのくらい残っているか。
- 経営意思決定のため・・・自分の会社で作ったほうが良いのか？他社から買った方が安いのか？経営判断材料として

【3】原価計算期間

製造業においても、1 会計期間（通常 1 年）における活動の記録に基づいて、貸借対照表や損益計算書等の財務諸表を作成しますが、その記録のために行う原価計算は、通常 1 カ月単位となります。この計算期間のことを原価計算期間といいます。

通常 1 カ月は（毎月 1 日～末日迄）

1 会計期間＝12 の原価計算期間

Ⅲ 原価とは・・・

さて、頻繁にでてくる原価という言葉ですが、そもそも原価とは何でしょう？

一言で言えば「製品 1 個を製造するためにかかった金額」となりますが、工業簿記では原価について細かく定義しています。

原価とは、経営活動（＝製造販売）に用いられた物（材料等）やサービス（労働）を支出額によって測ったものである。

さらに原価【総原価】は以下の 3 つに大別されます。

総 原 価	製 造 原 価
	販 売 費
	一般管理費

製 造 原 価・・・製造活動から生じた原価

例：材料・賃金・光熱費

販 売 費・・・販売活動から生じた原価

例：広告費・販売員の給料

一般管理費・・・管理活動から生じた原価

例：本社建物の減価償却費

【1】形態別分類・・・原価を 3 つに大別

製造原価はさらに細かく分類されます。

- ① **材料費**・・・製品を製造するために使われる物品を**材料**といい、製品製造のために材料を使用（消費）した場合、その使用した金額（消費額）のことを材料費という。
- ② **労務費**・・・製品を製造するために**労働力**を消費した場合、その消費額を労務費という。
- ③ **経 費**・・・製造原価のうち、材料費・労務費以外のものすべてを経費といい、具体的には電力・ガス・水道などの消費額をいう。

【2】製品との関連における分類

原価は、生産される一定単位の製品との関連から、その発生が直接的に認識できるかどうかにより製造直接費と製造間接費に分類されます。

①製造直接費・・・ある製品を製造するためにどれくらいの金額がかかったかを個別に計算できる製造原価。

⇒何を作るために使われたかすぐわかる製造原価

②製造間接費・・・ある製品を製造するためにどれくらいの金額がかかったかを個別に計算できない製造原価。

⇒何を作るために使われたかすぐわからない製造原価

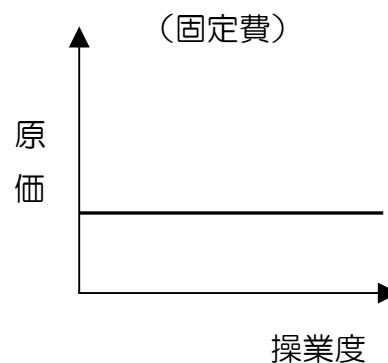
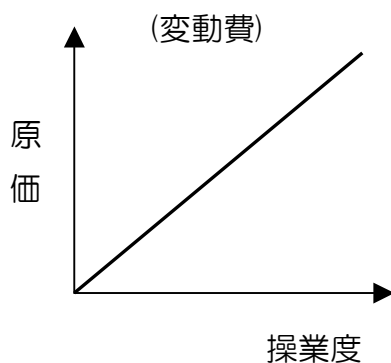
上記二つの分類をまとめると

		製品との関連による分類	
		製造直接費	製造間接費
形態別分類	材料費	直接材料費	間接材料費
	労務費	直接労務費	間接労務費
	経 費	直接経費	間接経費

【3】操業度との関連における分類

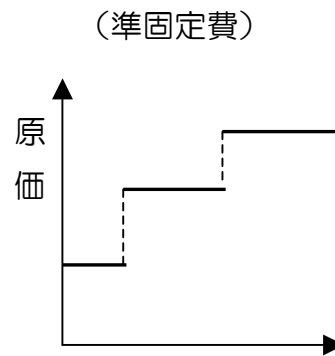
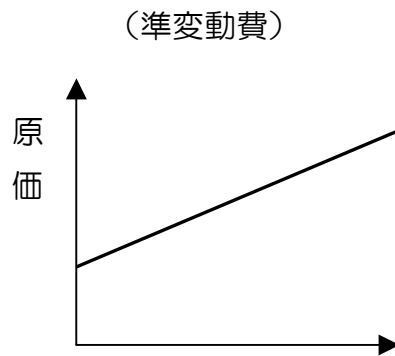
操業度・・・生産設備の利用程度（機械の運転時間等）

1. 変動費・・・操業度の増減に応じて比例的に増減する原価をいう。



2. 固定費・・・操業度の増減とは無関係に一定期間変化せずに発生する原価をいう。

3. 準変動費・・・操業度がゼロの場合にも一定額の原価が発生し、同時に操業度の増加に応じて比例的に発生する原価のこと。
4. 準固定費・・・ある範囲内の操業度の変化では固定的であり、これを超えると急増し、再び固定化する、つまり段階状に変化する原価のことをいう。



【原価】の捉え方

原価という単語1つとっても考え方は色々あります。まず、みなさんの周りにあるものが何になるかを照らし合わせながら、考えてみてください。

Ⅳ 原価計算をやってみよう！

◆10人のお客にカレー・シチューを各10人前（合計20皿）作りましょう。

材 料	じゃがいも	¥ 500	労務費（労働力）	材料を切る人	¥600
	にんじん	¥ 600		カレーを煮る人	¥400
	お 肉	¥1,500		シチューを煮る人	¥400
	たまねぎ	¥ 700			
	カレールー	¥ 600			
	シチュールー	¥ 500			
材料費 合計		¥4,400	労務費 合計		¥1,400

経 費（材料・労務費以外）	水	¥ 400
	ガス代	¥ 600
	経費合計	¥1,000

合 計 ¥6,800

合計 6,800 円で 20 皿分であれば、 $6,800 \text{ 円} \div 20 \text{ 皿分} = 340 \text{ 円}$ となります。

つまり一皿 340 円で作れるわけです。

みなさんも学生時代に調理実習やキャンプでこのような計算を行った覚えがありませんか？

商売にすれば**労務費（労働力）**はかかりますが、作ってくれるのが母親であったり彼女（彼氏）であったりすれば**労務費は【ゼロ】**です。（【愛情】は多くかかりますが笑）

実は、身の回りにおいて既に原価計算を経験していたのです。

原価計算のイメージはつかめましたか？

では、もう少し考えてみましょう！

次は前記例を【原価の分類】に当てはめてみましょう！

◆形態別分類・・・ 材料費・労務費・経費

◆製品との分類・・・

○製造直接費・・・

カレー・シチューを作るために使われたとすぐわかるもの
⇒ 材料費 カレールー and シチュールー
労務費 カレーを煮る人 ￥400
シチューを煮る人 ￥400
経 費 なし

○製造間接費・・・

カレー・シチューを作るために使われたとすぐわからないもの
⇒それ以外すべて

これをカレー・シチューごとに計算していくと

カレー

直接材料費	カレールー	￥600
直接労務費	カレーを煮る人	￥400
直接経費	なし	
製造直接費（カレー）		合計 ￥1,000

シチュー

直接材料費	シチュールー	￥500
直接労務費	シチューを煮る人	￥400
直接経費	なし	
製造直接費（シチュー）		合計 ￥ 900

間接材料費	じゃがいも（￥500）・にんじん（￥600）・お 肉（￥1,500）	
	たまねぎ（￥700）	計 ￥3,300
間接労務費	材料を切る人	￥600
間 接 経 費	水（￥400） ・ ガス代（￥600）	計 ￥1,000
製造間接費		合計 ￥4,900

直接材料費・直接労務費・直接経費は製品（カレー・シチュー）ごとに集計できますが、間接材料費・間接労務費・間接経費は製品（カレー・シチュー）ごとに集計できません（じゃがいも・にんじんは、カレーでもシチューでも共通に使えます）

このままでは製品（カレー・シチュー）ごとに集計できません。

そこで、共通に使える間接材料費・間接労務費・間接経費（製造間接費）を、ある一定の基準によって、各製品へ割り当てる手続が必要となります。この割り当てる手続を配賦といいます。

上記例の場合、皿数を一定基準とします。カレー・シチューとも 10 皿ずつなので、10 で分けることになります。

製造間接費 4,900 円 ÷ $\frac{10}{20} = 2,450$ 円 カレー・シチュー各 2450 円の負担となります。

カレー	製造直接費	¥ 1,000	シチュー	製造直接費	¥ 900
	製造間接費	¥ 2,450		製造間接費	¥ 2,450
	合 計	¥ 3,450		合 計	¥ 3,350

それぞれ 10 皿ですから 10 で割ると・・・

カレー 3,450 円 ÷ 10 皿分 = 345 円

シチュー 3,350 円 ÷ 10 皿分 = 335 円

1 皿あたりの原価が計算されます。

⇒カレーの方が、製造原価が高かった。という結果が導き出されました。

(カレー345 円 > シチュー335 円)

まとめ

【原価の構成】・・・上記例をまとめると Q【10%の営業利益を出したい場合いくらで販売？】

					営業利益 ()	製品 の 販 売 価 格 ()	
					販売費 (200)		営業費 (600)
					一般管理費 (400)		
間接材料費 ()		製 造 間接費 ()	製造原価 ()				
間接労務費 ()							
間 接 経 費 ()							
直接材料費 ()	製造直接費 ()						
直接労務費 ()							
直 接 経 費 ()							

A【総原価の10%増の価格で販売すればよい】

販売価格を決定するためには、必ず製造原価の計算が必要になります。つまり原価計算はもうけを出すために必要なのです。

☆おわりに☆

最後までお付き合い頂きましてありがとうございました。

本日のセミナーはいかがでしたでしょうか？簿記の勉強は、どうしても学問の世界を中心に回っているように感じます。しかし本来簿記と言うのは、企業の実態を正しく把握するための手段でしかないはずです。簿記は世の中の変遷に伴って移り変わっていくものであって、決して学問の世界を中心に変わって変わるものではありません。みなさんが生活している世の中の新しい出来事に対応して簿記の世界が広がっていると考えています。本来の姿はそうあるはずです。

このセミナーを通じ、世の中の流れに対応した簿記の世界を少しでも体験いただけたとすれば、幸いであり、また日商簿記 2 級の世界に足を踏み出す手助けが出来たとすれば、これ以上の喜びはありません。

簿記 2 級合格は手の届かない目標ではありませんが、学習方法や戦略を間違えると合格の二文字は遠ざかってしまう恐れがあります。

簿記 2 級は、会計士・税理士または他のビジネス資格への登竜門ともなっているだけに、一人でも多くの方が取得し、ビジネスチャンスに活かしていただけることを祈って本日のセミナーを終了したいと思います。

機会があればまたお会いしましょう。